

構内PHS対応 安否確認通報装置シリーズ



安否確認通報装置 ラック増設型(大型)

SVX400

上段ユニットは基本装置 次段ユニットは音声4ch装置
収納ラックは設置例です。(別売り)※1

〈特徴〉

- 送受信chのラック増設が可能です。chを増設すると安否確認の時間を短縮できます。
- 大規模な事業所で、安否確認を一括集中管理する場合に適しています。
- アンテナは外付けになります。
- サーバPCの増設が可能です。



安否確認通報装置 卓上完結型(小型)

SVX100

〈特徴〉

- ショートメール2ch、電話音声1ch搭載した安否確認通報装置です。小型ながら電話音声+プッシュボタン選択での安否応答を搭載し、メール操作が苦手方にもやさしい操作性。
- 大規模な事業所で、建物や部門毎に設置して運用する場合に適しています。



FAボケベル置換通報装置 卓上完結型(小型)

TP401-SX

〈特徴〉

- 生産収束したFAボケベルの入力信号やボケベルマスタ局をそのまま利用して、内線PHSのショートメールで設備通報などへ利用できます。
- FAボケベル送信機を弊社通報装置に差し替えるのみの簡単リプレース。
- さらに簡易な安否確認機能も搭載。

基本仕様	SVX400	SVX100	TP401-SX
送受信ch	内線ショートメール4ch 電話音声4ch 増設可	内線ショートメール2ch 電話音声1ch	内線ショートメール3ch
対象人数※2	400名～	100名	100名
通報点数※3	250点	250点	128点
サイズ	EIA5Uラック2台～	430X300X160	350X300X160

SVX=ショートメール・ボイスエクスチェンジャ 続く数字は通報先件数を意味します。
SX=ショートメール・エクスチェンジャ

フェニックスネットワークの通報装置の特徴

■FAシステム仕様の通報装置 制御盤のような構造で、またFA現場用に特化した通報装置を製作。

耐ノイズ・振動	耐温度・湿度	電断瞬停対応	ロングライフ	メンテナンスフリー	自己診断
通達確認	通報履歴	グループ通報	タッチパネル操作	PLC直結	FA-LAN直結

■通報装置を1台からカスタムメイド お客様の要求仕様によるカスタムメイドの通報装置を製作。搭載した技術・機能の実績例。 2014年現在

電話音声	電子メール	内線ショートメール	ライトメール	PBトーン判別	ハイブリッド通報
通報点数拡張	通報先拡張	現在値通報	優先割込通報	SCADA連動	通報二重化
安否確認	構内PHS対応	マンション対応	画像ftp送信	遠隔保守	屋外通報盤

本記載事項補足:FAボケベルはオムロン株式会社の商品名です。TP401は生産収束したFAボケベルの型式です。公衆PHS契約者数はY!モバイルPHSサービス加入者数(2014年3月現在)です。 ※1 収納ラックはEIA規格10ユニット以上のものをお客様でご準備ください。 ※2 対象人数は理論上10分以内に安否が集計できる人数です。 ※3 通報点数は安否確認以外で利用できる設備警報などのメッセージの種類です。

開発・製造

フェニックスネットワーク株式会社

〒982-0032 宮城県仙台市太白区富沢3-28-31
TEL:022-307-1361 FAX:022-307-1360
<http://www.pnxnet.co.jp/>

お問い合わせ先



Phenix Network

構内PHS対応
安否確認通報装置

- 構内PHSを安否確認や自動通報に有効活用!
- 電話音声とショートメールのハイブリッド通報
- 生産収束したFAボケベルの置き換えにも便利
- 丈夫なFA構造
- 平常時は設備自動通報にも

このメールなら災害時も遅延しない。



いざという時のために、構内PHS安否確認システムをおすすめします。

安否確認システムとは？

安否確認システムは、大災害や大事故が発生した際に、従業員が無事であったかどうかを自動的に確認する装置やサービスのことです。

阪神大震災後から導入する企業はありましたが、東日本大震災後に急増し、2012年3月時点で大手警備会社の企業向け携帯電話安否確認サービスが330万人の契約を超えたとも報道されています。安否確認システムは携帯電話やインターネットを利用した方式が主流であり、警備会社以外にもIT企業や電機メーカーなど10社以上の企業が国内でサービスを提供しています。

災害で携帯電話が不通の時、
従業員の安否確認はどうする？

既存の内線電話インフラを
有効活用できないか？

できます！ 構内PHSなら

災害に強い

大震災の携帯電話不通時も、構内PHSと自家発電のある病院や工場では内線電話ができた点に着目。

電話音声とショートメールが可能

構内PHSの通信機能は安否確認や自動通報に应用可能。既に構内PHSがあれば安否確認システムの構築は容易です。

構内PHSは根強い人気

■既存ユーザが多く、新規販売でも約3割のシェア。

病院は殆ど構内PHS。自動車など大規模工場も多数導入。公衆PHSも好調。加入者550万件越えの最盛期に迫る。

■無線規格が20年以上固定の日本規格。

無線LANのように3年周期で更新する海外規格とは大違い。通話品質やローミングの安定性でもPHSは無線LANより高性能。

■内線端末しか使えないから混雑や遅延が少ない。

このような導入効果が期待できます！

- 負傷者の優先救出を支援、無駄な捜索を減らし二次災害を防ぐ。
- 安否確認漏れを防ぎ、安否情報の共有が可能。
- 入退管理システム(位置情報)と連動した安否確認も可能。
- 平常時は工場設備故障通報(FA用通報)に使えるため、現場の生産性支援と通報システムの健全確認を両立。

安否確認システムのメリットは？

事業所内の安否確認は、これまで責任者や人事管理部門が、従業員1人ずつに電話やメールにて、確認・まとめ・報告…をしていました。従業員や協力会社の人数が多い事業所の場合や、責任者が不在の場合などで、人手による安否確認ができない、時間がかかる、正確性などの課題が想定されます。それらを解決するのが自動的に行う安否確認システムです。

■安否確認システムを導入するメリット。

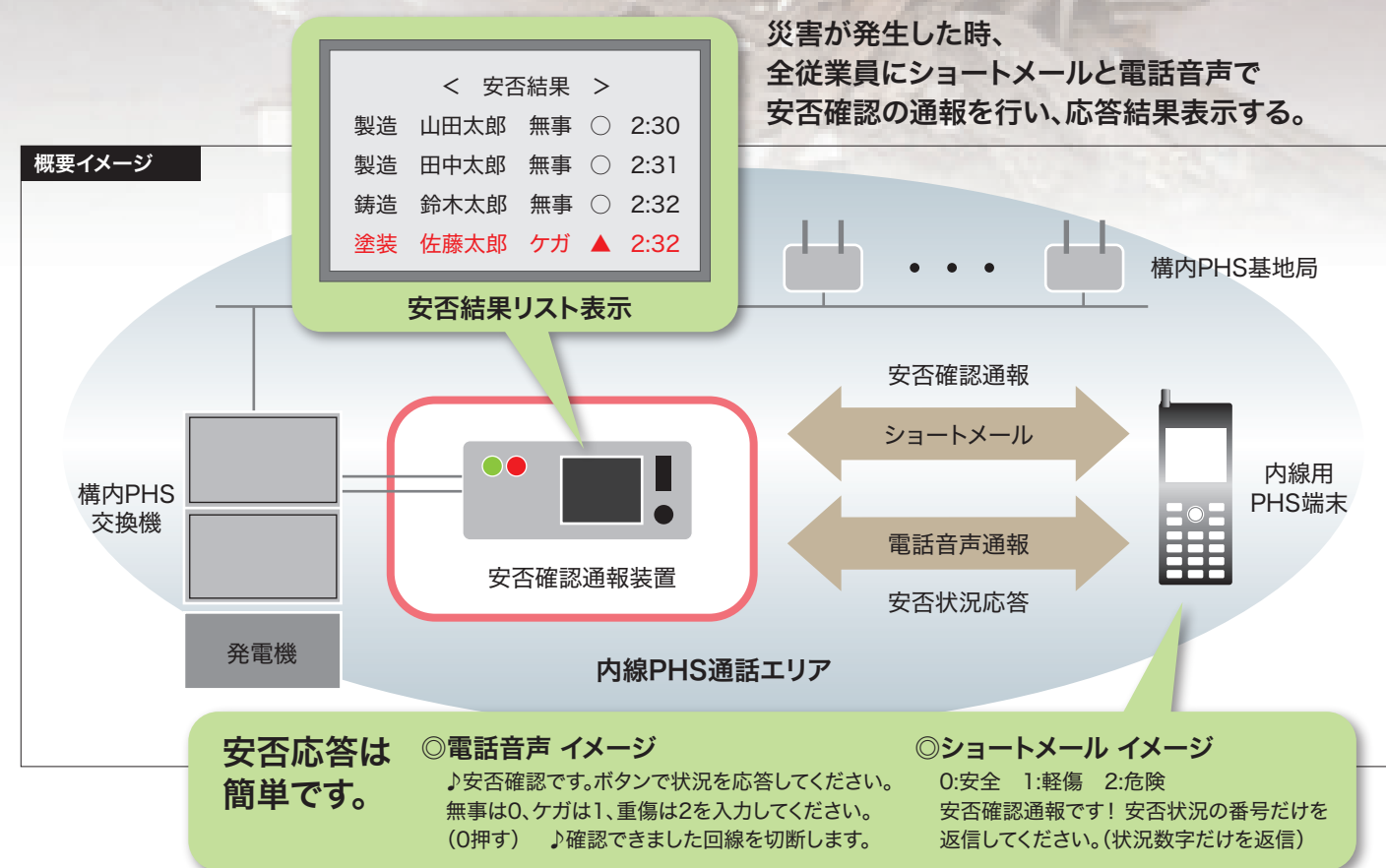
▶災害時に危険なエリアにいた人の無事や避難完了が確認できれば、危険なエリアに無駄な捜索に行って二次災害を起こすことが防げる。

▶要救出者の人数や部署が確認できれば優先的な救出の支援が可能。▶データ共有により素早く関連部門との連携や、家族への連絡が可能。

■安否確認をシステムで自動的に行うメリット。(人手作業との比較)

▶責任者の安否確認作業の負担を軽減。▶確認漏れや集計ミスの防止。▶安否結果データのリアルタイムな共有が可能。

▶責任者が確認作業から解放され、避難や救出に行くことが可能。▶安定した速度で短時間に状況集計できる。



安否確認の流れ

